

宮城県災害時小児周産期リエゾン研究会 企画書（案）

1 研修の目的・ねらい

各地域の周産期医療機関が、災害時に備えるため災害時小児周産期リエゾンの活動を理解するとともに、各立場から意見交換等を行い、地域の実情を踏まえた災害時小児周産期リエゾンの在り方の検討に資するための研究会とする。

2 主催 宮城県（直営）

3 実施計画 ※3か年計画

年度	内容
H30年度	～啓発・検討～ 周産期医療関係者に災害時小児周産期リエゾンの業務内容等を周知するとともに、県内の周産期医療体制を踏まえた小児周産期の災害医療体制についてフィードバックを受ける。（質疑応答・アンケート）
R1年度	～県内ルールの検討～ 国が定めた災害時小児周産期リエゾン活動要領を参考に、県内における小児周産期の災害医療体制の検討を行い、宮城県災害時小児周産期リエゾン運用計画の策定に向け意見を伺う。（意見交換）
R2年度	～体制整備～ 宮城県災害時小児周産期リエゾン活動要領の周知、必要に応じて補足等を行う。 （グループワークによるシミュレーションを想定）

4 日時・場所

令和2年3月8日（日） 13時から16時半

宮城県庁2階 講堂

5 参集範囲（県内）

- | | |
|----------------------------|-----|
| (1) 産科，新生児科，小児科の医療従事者及び助産師 | 50人 |
| (2) 災害医療コーディネーター又はDMAT隊員 | 10人 |
| (3) 消防隊員 | 10人 |
| (4) 保健所職員 | 10人 |

合計80人程度

6 内容と講師（予定）

- リエゾン，災害医療コーディネーター及びDMATの災害時・平時における活動について
国立病院機構災害医療センター臨床研究部 厚生労働省 DMAT 事務局 岬 美穂 先生
大崎市民病院救命救急センター長 山内 聡 先生
- 災害時小児周産期リエゾンの訓練（他県事例・県内の訓練案）について
東北大学東北メディカル・メガバンク機構 菅原 準一 先生
- 県のルール（リエゾン運用計画（中間案）等）について
宮城県保健福祉部医療政策課
- 意見交換
リエゾン活動に関する問いに対してグループごとに意見交換を行う

【意見交換について】

1 内容

Q. 災害時小児周産期リエゾンとは、災害時に、都道府県が小児・周産期医療に係る保健医療活動の総合調整を適切かつ円滑に行えるよう、必要な助言及び調整を行います。

あなたが被災地の医療機関にいる場合に、調整本部で活動するリエゾンに対して、現場から発信すべき情報及び発信手段とは何が考えられますか。

A. (想定回答)

○発信すべき情報

被害状況（施設設備、ライフライン）、患者情報、必要な人的物資支援 など

○発信手段

日本産婦人科学会大規模災害情報対策システム（PEACE）、新生児医療連絡会の災害時連絡網、EMIS、防災無線、FAX など

☆ねらい

- ・保健医療活動に必要な情報を意見交換することにより、災害時の対応についてイメージできる。
- ・県は積極的な情報収集に努めるが、現場からも情報を発信することを意識してもらう。
- ・運用計画の『第6 活動内容』に記載すべき内容の整理ができる。

2 グループ構成

1グループ8人 × 10グループ

- | | |
|------------------------|----|
| ■ 産科小児科の医師等 | 5人 |
| ■ 災害医療コーディネーター又はDMAT隊員 | 1人 |
| ■ 消防隊員 | 1人 |
| ■ 保健所職員 | 1人 |

各グループに1名程度、進行役（リーダー）を配置する。（事前依頼）
講師の先生方には、各グループを巡回いただき、適宜助言してもらう。

3 時間配分

- ・自己紹介、役割分担 5分
 - ・個別意見出し5分
 - ・グループまとめ10分
 - ・発表30分
 - ・講評10分
- ⇒計 1時間程度

4 まとめ方

個別意見を付箋紙に書き出し、グループのまとめを模造紙にまとめる。

※職種を付箋紙の色で区分する。

青：小児周産期医療従事者、助産師 黄：災害医療コーディネーター、DMAT
桃：消防隊員 緑：保健所